

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
保健医療福祉とリハビリテーションの理念									
リハビリテーション概論 (1)	15						15	1	◎
リハビリテーション概論 (2)		30					30	2	◎
小計	15	30	0				45	3	

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎作業療法学									
作業療法概論	30						30	2	◎
レクリエーション療法演習			30				30	1	◎
小計	30	0	30				60	3	
作業療法評価学									
作業療法評価学（2）			30				30	2	◎
作業療法評価学実習（1）		30					30	1	◎
小計	0	30	30				60	3	
作業療法治療学									
作業治療学Ⅰ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅰ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅱ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅱ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅲ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅲ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅳ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅳ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅴ（1）			30				30	2	◎
作業治療学Ⅴ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅵ				30			30	2	◎
小計		0	270	180	0	0	450	30	

4 選択必修科目

レクリエーション概論		15					15	1	◎
障害者スポーツ論		15					15	1	◎
小計	0	30		0		0	30	2	
総合計	45	90	330	180	0	0	645	41	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論 (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	1	1	前期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。

◇到達目標

・多職種協業とはどういうものがあるか理解する。 ・ICF、ICIDH、ADL、QOLという用語について理解する。 ・福祉用具、ユニバーサルデザインなどについて理解する。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションの定義と4つの側面を理解できるようになる	講義	
第2回	障害論/ICFとICIDHの違いを説明できるようになる	講義	
第3回	ADL/QOLについて説明できるようになる	講義	
第4回	チーム医療/協業としてのリハビリテーションについて理解できる	講義	
第5回	他職種の仕事を理解する(介護福祉士)	講義	
第6回	他職種の仕事を理解する(看護師)	講義	
第7回	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン、福祉用具の知識を深める	講義	
第8回	試験		

評価方法	☒ 試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3班
参考図書	適宜紹介する
留意事項	授業には能動的に参加すること。シラバスを見て事前に予習し、講義後は復習が望ましい。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論 (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	1	2	後期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。

◇到達目標

リハビリテーション職種に必要な態度や知識を用語で説明することが出来る(医療倫理・守秘義務・他) 国際リハビリテーション 地域の活動：国外・国内の状況を情報収集し考えを述べる事が出来る。 他職種連携について 国内外の状況について学び必要な法令を述べる事が出来る

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	疾患調べ(脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第2回	疾患調べ(脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第3回	疾患調べ(脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第4回	疾患調べ 発表	講義・演習	
第5回	疾患調べ 発表	講義・演習	
第6回	海外の作業療法 スウェーデンの作業療法 (河本佳子先生)	講義	
第7回	観察記録、SOAP	講義	
第8回	SOAP	講義	
第9回	ICF	講義・演習	
第10回	ICF グループワーク	講義・演習	
第11回	ICF グループワーク発表	講義・演習	
第12回	他職種のリハビリ PT	講義	
第13回	他職種のリハビリ ST	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版 (医歯薬出版)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	授業には能動的に参加すること。予習と復習をしておくこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	北野 真奈美	1	2	前期	必修

◇講義概要

作業療法についてその全体像が把握できるよう総合的、体系的に学ぶ。

◇到達目標

- ◆これから目指す作業療法士という職業について理解を深める。
- ◆各領域における作業療法士の役割について学ぶ。
- ◆プロフェッショナルリズムの基礎的な力を養う。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義・演習	北野
第2回	作業療法とは何か	講義・演習	北野
第3回	作業療法と関連する学問 医学系科目と作業療法	講義	北野
第4回	作業療法の定義	講義	北野
第5回	作業療法の対象 ①精神障害（病院精神科）	講義	石川
第6回	作業療法の対象 ②精神障害（ストレスケア病棟/リワークプログラム）	講義	池田/犬
第7回	作業療法の対象 ③高齢期の作業療法（デイケア）	講義	島本
第8回	作業療法の対象 ④高次脳機能障害の作業療法	講義・演習	北野
第9回	作業療法の対象 ⑤身体障害の作業療法（日常生活活動）	講義	籠島
第10回	作業療法の対象 ⑥身体障害の作業療法（環境適応の観点から）	講義	森木
第11回	作業療法の対象 ⑦高齢期の作業療法（特別養護老人ホーム）	講義	池田/犬
第12回	作業療法の対象 ⑧発達障害の作業療法（重症心身障害児を中心に）	講義・演習	北野
第13回	作業療法の対象 ⑨地域における作業療法（訪問作業療法）	講義	渡邊
第14回	作業療法と関連する職種と作業療法士の職業倫理	講義・演習	北野
第15回	試験およびまとめ		

評価方法	■試験（40％） □実技試験（ ）％ ■演習評価（20％） □小テスト（ ）％ ■レポート（40％） □その他（ ）％
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	予習復習を行い、理解度を高めることを心がけてください。 なお、『作業療法の対象』では、講義順序が変わることがあります。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション療法演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	2	1	前期	必修

◇講義概要

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法を理解する

◇到達目標

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法の理解

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ファストインプレッションとは	講義・演習	
第2回	出会いの場と分析（交流分析）	講義・演習	
第3回	デュアルタスク手遊び	講義・演習	
第4回	レクリエーション財とは	講義・演習	
第5回	活動の分析とアレンジ	講義・演習	
第6回	集団の中の個人を捉える（五感で感じる技術）	講義・演習	
第7回	集団を介したレク活動における観察法	講義・演習	
第8回	集団を介したレク活動の実際	講義・演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践1	演習	
第10回	レクリエーションプログラムについて	演習	
第11回	ドッグセラピー（レスキュードッグ）の体験	講義・演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義・演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義・演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	演習	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 90 %） ☒ その他（ 10 %）
------	---

教科書	なし
参考図書	療法的レクリエーション資料 その他適宜配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施 最終演習・実技にてレクリエーション課程を評価する 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがある

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学 (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	2	2	前期	必修

◇講義概要

適切な治療及び指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本的事項について学ぶ。
--

◇到達目標

・評価の意義，目的を説明できる ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる ・測定（検査）方法を修得し説明できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	協調性検査	講義	
第2回	知覚検査	講義	
第3回	知覚検査	講義	
第4回	画像評価、筋緊張検査	講義	
第5回	OSCE（協調性検査・知覚検査）、課題：国家試験過去問題	試験	
第6回	上肢機能検査	講義	
第7回	脳神経検査	講義	
第8回	脳神経検査	講義	
第9回	興味・役割・QOL 検査	講義	
第10回	OSCE（上肢機能検査・脳神経検査）、課題：国家試験過去問題	試験	
第11回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第12回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第13回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第14回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第15回	試験・まとめ	試験	

評価方法	■試験（70%） ■小テスト（30%）	□実技試験（%） □レポート（%）	□演習評価（%） □その他（%）
------	------------------------	----------------------	---------------------

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版，医学書院 PT・OTのための画像のみかた，金原出版
参考図書	ベットサイドの神経の診かた，医歯薬出版
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワークへ主体的に参加する。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学実習（1） （実務経験のある教員等による授業科目）	渡邊 俊行	1	1	後期	必修

◇講義概要

作業療法評価学で学んだ内容を実習を通して学ぶ。

◇到達目標

・評価の意義，目的を説明できる ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる ・測定（検査）方法を修得し実施できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	演習	
第2回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	演習	
第3回	関節可動域測定	演習	
第4回	関節可動域測定	演習	
第5回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	試験	
第6回	摂食・嚥下機能評価	演習	
第7回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	試験	
第8回	徒手筋力検査法	演習	
第9回	徒手筋力検査法	演習	
第10回	徒手筋力検査法	演習	
第11回	排泄機能評価	演習	
第12回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	試験	
第13回	反射検査、姿勢反射検査	演習	
第14回	認知・知的機能評価	演習	
第15回	まとめ	講義・演習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☒ 実技試験（ 50%） ☒ 演習評価（ 20%） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 30%） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版，医学書院 新 徒手筋力検査法 原著第10版，協同医書出版社 PT・OTのための画像のみかた，金原出版
参考図書	ベットサイドの神経の診かた，医歯薬出版
留意事項	演習では主体的に参加する。 予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅰ（Ⅰ） （実務経験のある教員等による授業科目）	森木 紀博	2	4	前期	必修

◇講義概要

身体障害に関する作業療法の総論と各論（脳血管障害、脊髄損傷、神経・筋疾患、リウマチ疾患、失調症、頭部外傷、切断、脱髄疾患、呼吸器疾患、熱傷、骨折等）について学ぶ。また、各疾患を実際に見ることと、併せて筋、感覚、循環、呼吸などの機能を理解する。喀痰等の吸引についても学ぶ。

◇到達目標

・各疾患の病態、障害像を理解する ・作業療法の特性を活かした評価、訓練、指導、援助方法を学ぶ ・身障領域の国試問題の理解を深める
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	
第2回	身体障害領域の実際 症例検討	講義	
第3回	疾患別作業療法 呼吸器疾患	講義	
第4回	疾患別作業療法 呼吸器疾患、糖尿病	講義	
第5回	疾患別作業療法 循環器疾患	講義	
第6回	疾患別作業療法 心電図	講義	
第7回	疾患別作業療法 廃用症候群	講義	
第8回	疾患別作業療法 ギランバレー、筋ジストロフィー	講義	
第9回	疾患別作業療法 多発性硬化症、ALS	講義	
第10回	疾患別作業療法 腱板断裂	講義	
第11回	疾患別作業療法 手の外科・末梢神経損傷（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第12回	疾患別作業療法 手の外科・末梢神経損傷（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第13回	疾患別作業療法 SCD	講義	
第14回	患者モデル評価説明、準備	講義	
第15回	疾患別作業療法 骨折（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第16回	疾患別作業療法 骨折（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第17回	患者モデル評価準備	講義	
第18回	患者モデル評価準備	講義	
第19回	疾患別作業療法 切断（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第20回	疾患別作業療法 切断（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第21回	疾患別作業療法 喀痰吸引（介護福祉学科 澤浦知子先生）	講義	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

回 数	内 容	講義形態	備考
第 22 回	疾患別作業療法 喀痰吸引（介護福祉学科 澤浦知子先生）	講義	
第 23 回	患者モデル来校・評価実施	講義・演習	
第 24 回	患者モデル来校・評価実施	講義・演習	
第 25 回	患者モデル評価まとめ	講義	
第 26 回	患者モデル評価まとめ	講義	
第 27 回	患者モデル評価発表準備	講義	
第 28 回	患者モデル評価発表	講義	
第 29 回	患者モデル評価発表フィードバック	講義	
第 30 回	本試験	講義	

評価方法	■試 験（ 20 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	■小テスト（ 30 %） ■レポート（ 50 %） □その他（ %）

教 科 書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 メジカルビュー社
参考図書	
留意事項	各種疾患学について事前に概要を調べておくこと。評価項目・方法の確認をすること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅰ（2） （実務経験のある教員等による授業科目）	森木 紀博	2	2	後期	必修

◇講義概要

身体障害に関する作業療法の総論と各論（脳血管障害、脊髄損傷、神経・筋疾患、リウマチ疾患、失調症、頭部外傷、切断、脱髄疾患、呼吸器疾患、熱傷、骨折等）について学ぶ。また、各疾患を実際に見ることと、併せて筋、感覚、循環、呼吸などの機能を理解する。喀痰等の吸引についても学ぶ。

◇到達目標

・各疾患の病態、障害像を理解する ・作業療法の特性を活かした評価、訓練、指導、援助方法を学ぶ ・身障領域の国試問題の理解を深める
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	森木
第2回	疾患別作業療法 脳血管障害	講義	
第3回	疾患別作業治療学 CVA（急性期の実際）	講義	済生会滋賀県病院 藤田先生
第4回	疾患別作業治療学 CVA（急性期の実際）	演習	
第5回	疾患別作業治療学 CVA（治療の実際）	講義	森木
第6回	疾患別作業治療学 CVA（症例検討）	講義	
第7回	ADL と作業治療学（起居動作）	講義・演習	森木
第8回	ADL と作業治療学（アクティビティ）	講義・演習	
第9回	ADL と作業治療学（更衣動作）	講義・演習	森木
第10回	ADL と作業治療学（食事動作）	講義・演習	
第11回	疾患別作業治療学 パーキンソン病	講義	大原記念病院 竹内先生
第12回	疾患別作業治療学 ニューロリハビリ	講義	
第13回	物理療法	講義	理学療法学科 歌川先生
第14回	物理療法	講義	
第15回	試験		森木

評価方法	■試験（ 100 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	□小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）

教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 メジカルビュー社
参考図書	
留意事項	授業前の予習および授業後の復習をして授業に臨んでください。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅱ（Ⅰ） （実務経験のある教員等による授業科目）	石川 大	2	4	前期	必修

◇講義概要

精神障害に関する作業療法の総論と各論（機能性精神障害、器質性精神障害、神経性精神障害、児童期・青年期の障害、老年期の障害）について学ぶ。また、病院やデイケアなどの関連施設の見学を通して障害の理解を深める。
--

◇到達目標

・精神障害を患った対象者の気持ちを想像できるようになる。 ・精神科作業療法の治療構造を理解する。 ・対象者と円滑なコミュニケーションとれるようになり、そこから評価ができるようになる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	精神の病い処遇の歴史と作業療法を理解する	講義	
第2回	身体障害との比較から、精神障害の特性をイメージする	講義	
第3回	精神科作業療法の治療構造を理解できるようになる	講義	
第4回	治療構造をもとにプログラムを立案する	演習	
第5回	作業とはどのような意味があるか考えられるようになる	講義	
第6回	グループワークを通じて、作業分析の様々な視点あることを理解する	演習	
第7回	精神科での他職種の役割を理解する	講義	
第8回	作業を意識的に用いれるようになる	演習	
第9回	作業遂行能力を自己評価できるようになる	講義	
第10回	作業をしながら対象者を評価できるようになる	演習	
第11回	精神障害を患った人とのコミュニケーション力を身につける①	講義	
第12回	精神障害を患った人とのコミュニケーション力を身につける①	演習	
第13回	統合失調症と作業療法について理解する①	講義	
第14回	統合失調症と作業療法について理解する②	演習	
第15回	気分障害と作業療法について理解する①	講義	
第16回	気分障害と作業療法について理解する②	演習	
第17回	神経症圏の障害と作業療法について理解する①	講義	
第18回	神経症圏の障害と作業療法について理解する②	演習	
第19回	中間テスト	演習	
第20回	評価バッテリーを用いて、精神機能の評価を行えるようになる①	演習	
第21回	評価バッテリーを用いて、精神機能の評価を行えるようになる②	講義	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

回 数	内 容	講義形態	備考
第22回	作業をしながら対象者を評価できるようになる	講義	
第23回	臨床総合実習セミナーに参加し、評価のまとめ方と事例について学ぶ	講義	
第24回	ウォッチングリストを基に、対象者の様子を言語化できるようになる	講義	
第25回	事例を通じて、精神認知機能の評価ができるようになる	講義	
第26回	治療援助手段（評価から焦点化）について考えられるようになる	演習	
第27回	対象者に合わせた作業療法プログラムを立案できるようになる①	講義	
第28回	対象者に合わせた作業療法プログラムを立案できるようになる②	演習	
第29回	作業治療学Ⅱ（1）で学んだことを振り返る	講義	
第30回	試験および解説	試験	

評価方法	■試験（ 60%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 25%）	■レポート（ 15%）	□その他（ %）

教科書	精神障害と作業療法【新版】（三輪書店）
参考図書	作業療法技術ガイド、生活を支援する精神障害作業療法第2版
留意事項	※授業理解のために、授業前後に予習復習をすること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅱ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	後期	必修

◇講義概要

精神障害に関する作業療法の総論と各論（機能性精神障害、器質性精神障害、神経性精神障害、児童期・青年期の障害、老年期の障害）について学ぶ。また、病院やデイケアなどの関連施設の見学を通して障害の理解を深める。
--

◇到達目標

・精神疾患を抱える人たちの生き方や日々の生活について理解する。 ・事例を通じて、具体的で現実的な評価や支援できるようになる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	医療観察法と司法精神科作業療法について説明できるようになる。	講義	
第2回	司法精神科作業療法の事例を通じてプログラムを立てる。	演習	
第3回	精神科クリニックと精神科訪問リハの地域での取り組みを学ぶ。	講義	
第4回	精神科訪問リハのプログラムを立案できるようになる。	演習	
第5回	グループダイナミクス論。対象による集団の違いを理解できるようになる。	講義	
第6回	グループダイナミクス論。集団力動を理解できるようになる。体験グループ。	演習	
第7回	事例を通じて、全体像をまとめることができるようになる。	演習	
第8回	中間試験と復習	演習	
第9回	物質関連障害の作業療法について理解する①	講義	
第10回	物質関連障害の作業療法について理解する②	演習	
第11回	各精神疾患の特徴を理解し、疾患に合わせたアプローチができるようになる。	講義	
第12回	認知行動療法を理解できるようになる。	演習	
第13回	精神疾患の回復過程を説明できるようになる。	講義	
第14回	精神疾患の回復過程に合わせた治療を立案できるようになる。	演習	
第15回	試験および解説	演習	

評価方法	■試験 (65%) □実技試験 (%) □演習評価 (%) ■小テスト (20%) ■レポート (15%) □その他 (%)
------	--

教科書	精神障害と作業療法【新版】 (三輪書店)
参考図書	作業療法技術ガイド、生活を支援する精神障害作業療法第2版
留意事項	授業理解のために、授業前後に予習復習をすること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅲ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	北野 真奈美	2	4	前期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。また、正常児や障害児を実際に観察し、接することにより理解を深める。

◇到達目標

- ①発達期に障害を持つことの意味を理解することができる
- ②発達障害児者への作業療法評価について学ぶ
- ③各疾患の特徴やそれに対する代表的アプローチを学ぶ
- ④正常発達を理解し正常発達を促すことができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	発達期に障害を持つ意味	講義	
第2回	発達期に障害を意味を脳性麻痺児の歩行を通じて考える	演習	
第3回	発達障害領域の作業療法-定義、対象疾患等	講義	
第4回	子どもの発達と遊び-自分たちの遊び歴を振り返る	講義・演習	
第5回	作業の発達と変容-①作業の定義 ②作業の見方	講義・演習	
第6回	作業の発達と変容-③作業の発達	講義・演習	
第7回	発達障害領域の作業療法評価 - ①概論 ②情報収集と面接・観察の視点	講義・演習	
第8回	発達障害領域の作業療法評価 - ③発達像を把握するための検査	講義・演習	
第9回	発達障害領域の作業療法評価 - ④評価結果の分析と解釈	講義・演習	
第10回	発達障害に対する代表的な治療法 - ①感覚統合（感覚統合とは）	講義・演習	
第11回	発達障害に対する代表的な治療法 - ①感覚統合（感覚統合的評価）	講義・演習	
第12回	発達障害に対する代表的な治療法 - ①感覚統合（感覚統合の実践）	講義・演習	
第13回	重症心身障害の作業療法（1）	講義・演習	
第14回	重症心身障害の作業療法（2）	講義・演習	
第15回	自閉症スペクトラム障害の作業療法（1）	講義	池田
第16回	自閉症スペクトラム障害の作業療法（2）	講義	池田
第17回	スイッチ作成実習	演習	中園
第18回	スイッチ作成実習	演習	中園
第19回	重症心身障害の作業療法（3）	演習	
第20回	意欠如性多動性障害(ADHD)の作業療法	演習	池田

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

回 数	内 容	講義形態	備考
第 21 回	限局性学習障害 (SLD) の作業療法	講義	池田
第 22 回	重症心身障害の作業療法 (4)	講義・演習	
第 23 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ②TEACCH (理解)	講義・演習	池田
第 24 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ②TEACCH (構造化を探す)	講義・演習	池田
第 25 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ③SST (小児)	講義・演習	池田
第 26 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ③SST (成人)	講義・演習	池田
第 27 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ④CBT (小児)	講義・演習	池田
第 28 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ④CBT (成人)	講義・演習	池田
第 29 回	まとめ	講義	
第 30 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試 験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (40 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ そ の 他 (%)
------	---

教 科 書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第 3 版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	予習・復習を行ってください

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅲ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	北野 真奈美	2	2	後期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。また、正常児や障害児を実際に観察し、接することにより理解を深める。

◇到達目標

①原始反射・姿勢反応について理解することができる
②0－12 か月の正常運動発達について理解することができる
③脳性麻痺児のタイプ別の症状について理解することができる
④発達期に障害を持った児者に対して必要な評価および治療を考えようとする姿勢が持てる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	正常運動発達の理解 ― ①反射・反応とは ②原始反射について	講義・演習	
第 2 回	正常運動発達の理解 ― ③姿勢反射について	講義・演習	
第 3 回	正常運動発達の理解 ― ③0 - 6 か月の運動発達	講義・演習	
第 4 回	正常運動発達の理解 ― ④7－12 か月の運動発達	講義・演習	
第 5 回	脳性麻痺に対する作業療法（1） ― 脳性麻痺の定義、タイプ別特徴	講義・演習	
第 6 回	脳性麻痺に対する作業療法（2） ― 理解に必要な基礎知識	講義・演習	
第 7 回	脳性麻痺に対する作業療法（3） ― 評価と治療について	講義・演習	
第 8 回	脳性麻痺に対する作業療法（3） ― 評価と治療について	講義・演習	
第 9 回	脳性麻痺に対する作業療法（4） ― 事例から考える	演習	
第 10 回	脳性麻痺に対する作業療法（4） ― 事例から考える	演習	
第 11 回	ビジョントレーニング（1） ― 視覚機能について	講義・演習	
第 12 回	ビジョントレーニング（1） ― 視覚機能について	講義・演習	
第 13 回	ビジョントレーニング（2） ― 視覚機能を伸ばすには	講義・演習	
第 14 回	ビジョントレーニング（3） ― 事例から考える	演習	
第 15 回	試験		

評価方法	☒ 試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 40 %）
	☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ %） ☐ そ の 他（ %）

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学第 3 版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	予習・復習をして、授業の理解度を深めるようにしましょう。 講義の進行度合いにより、順序等の変更の可能性があります。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅳ（Ⅰ） （実務経験のある教員等による授業科目）	島本 良重	2	4	前期	必修 選択

◇講義概要

老年期に関する作業療法の総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。また栄養学についても理解を深める。

◇到達目標

- ・加齢と老化の違いについて理解し述べることができる（老化に伴う変化）
- ・高齢期の作業療法に必要な評価技能を身につけることができる 標準予防策 血圧・体温・脈拍測定
- ・ライフコースと作業療法について学び、キャリア形成について述べるができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 老年期を中心とした人口問題と作業療法	講義	
第2回	老年期の作業療法で注意すべき疾患とリスク 感染症	講義・演習	
第3回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第4回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第5回	リハビリテーション栄養・摂食具・摂食動作/演習/引用文献の書き方	講義・演習	
第6回	事例作成 ・ジェノグラム作成 ・自助具作成	演習	
第7回	事例作成 ・事例項目分類演習（一般情報、医学的情報、他）	講義・演習	
第8回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第9回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 整形外科疾患 演習問題	講義・演習	
第10回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 整形外科疾患	講義	
第11回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 感染症 標準予防策	講義	
第12回	前半テスト / 事例作成 演習問題2	講義・演習	
第13回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 認知症	講義・演習	
第14回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 認知症	講義・演習	
第15回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 循環器疾患	講義・演習	
第16回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 循環器疾患	講義・演習	
第17回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 循環器疾患	講義・演習	
第18回	事例報告について 実習セミナー案内	講義・演習	
第19回	臨床実習セミナー	演習	
第20回	事例作成 演習問題3	講義・演習	
第21回	制度と作業療法提供施設 見学準備	演習	
第22回	制度と作業療法提供施設 一般企業 納得工房見学	演習	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

第23回	制度と作業療法提供施設 一般企業 納得工房 発表資料作成	講義・演習	
第24回	制度と作業療法提供施設 介護系施設 絵画療法（兼元和美）	講義・演習	
第25回	制度と作業療法提供施設 介護系施設 絵画療法（兼元和美）	講義・演習	
第26回	制度と作業療法提供施設 発表	講義・演習	
第27回	制度と作業療法提供施設 一般企業	講義	
第28回	制度と作業療法提供施設 一般企業	講義	
第29回	中年期および高齢者の健康問題 視覚障害 聴覚障害	講義	
第30回	試験	講義・演習	

評価方法	☒ 試験（70％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 演習評価（10％） ☒ 小テスト（10％） ☒ レポート（10％） ☐ その他（ ％）
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学（メジカルビュー社）
参考図書	順次紹介する予定
留意事項	授業の前後に、予習・復習すること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅳ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	島本 良重	2	2	後期	必修

◇講義概要

老年期に関する作業療法の総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。また栄養学についても理解を深める。
--

◇到達目標

・制度と作業療法提供施設について、調べ述べることができる ・介護保険や各種サービスの内容について、資料を作成し表現することができる ・作業療法の介入について、作業療法過程に基づき評価計画を立案することができる
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義・演習	
第2回	高齢者マネジメント	講義・演習	
第3回	高齢者マネジメント ケアマネジメント フレイルとサルコペニア	講義・演習	
第4回	QOL と健康の増進	講義・演習	
第5回	訪問の目的とサービス内容 目標設定について	講義・演習	
第6回	訪問の目的とサービス内容 目標設定について	講義・演習	
第7回	通所の目的とサービス内容 絵画療法	講義・演習	
第8回	通所の目的とサービス内容 ディケア（認知症）（外部講師）	講義・演習	
第9回	入所の目的とサービス内容 介護老人保健施設（外部講師）	講義・演習	
第10回	入所の目的とサービス内容 排泄ケア（外部講師）	講義・演習	
第11回	作業療法による介入 訪問看護ステーション	講義・演習	
第12回	作業療法過程について 入所	講義・演習	
第13回	作業療法過程について 在宅介護を経験した事例	講義・演習	
第14回	作業療法過程について 地域活動 機能訓練事業とその後	講義・演習	
第15回	試験		

評価方法	■試験（ 50 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 20 %） ■小テスト（ 10 %） ■レポート（ 20 %） □その他（ %）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	授業の前後に、予習・復習すること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅴ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	前期	必修

◇講義概要

日常生活活動に関する技術論の基礎知識（定義、歴史、作業療法士の役割、生活様式と ADL、指導理論）及び基礎技法（評価、指導計画、指導の実例）について学ぶ。さらに障害別の日常生活活動の評価や指導法を実習する（リハビリ関連機器を含む）。

◇到達目標

- ・ ADL、IADL とは何か説明することができる
- ・ 基本動作、ADL 動作について模倣することができる
- ・ 代表的な ADL 評価法（特に FIM）を実施することができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	ADL と IADL の概要	講義	
第 2 回	評価法（1） Barthel Index と FIM	講義・演習	
第 3 回	評価法（2） 機能的自立尺度（FIM）	講義・演習	
第 4 回	評価法（3） 機能的自立尺度（FIM）	講義・演習	
第 5 回	評価法（4） 機能的自立尺度（FIM）	講義・演習	
第 6 回	評価法（5） 機能的自立尺度（FIM）	講義・演習	
第 7 回	基本動作（寝返り、起き上がり）	講義・演習	
第 8 回	基本動作（立ち上がり・車椅子移動/歩行）	講義・演習	
第 9 回	基本動作（移乗 車いす⇄ベッド 車いす⇄トイレ 車いす⇄浴槽）	講義・演習	
第 10 回	ADL（食事・整容）	講義・演習	
第 11 回	ADL（排泄・更衣・入浴）	講義・演習	
第 12 回	IADL（調理）	講義・演習	
第 13 回	IADL（買い物・金銭管理・服薬管理）	講義・演習	
第 14 回	まとめ（FIM おさらい）	講義・演習	
第 15 回	試験	講義	

評価方法	☒ 試験（ 90 %） ☒ 小テスト（ 10 %）	☐ 実技試験（ %） ☐ レポート（ %）	☐ 演習評価（ %） ☐ その他（ %）
------	--	--	---

教科書	・ ADL とその周辺 第3版. 医学書院 ・ 姿勢と動作—ADL その基礎から応用—、メジカルフレンド社
参考図書	適宜紹介する
留意事項	授業には能動的に参加すること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅴ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	後期	必修

◇講義概要

日常生活活動に関する技術論の基礎知識（定義、歴史、作業療法士の役割、生活様式と ADL、指導理論）及び基礎技法（評価、指導計画、指導の実例）について学ぶ。さらに障害別の日常生活活動の評価や指導法を実習する（リハビリ関連機器を含む）。

◇到達目標

- ・疾患別の ADL の特徴を理解し、それぞれに異なる援助方法を理解する。
- ・ADL 訓練における作業療法士の役割と他職種の役割を理解する。
- ・グループワークを通して、積極的に自分の意見を述べるができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	疾患別 ADL 脳卒中	講義	
第 2 回	疾患別 ADL 脳卒中	講義	
第 3 回	疾患別 ADL 脊髄損傷	講義	
第 4 回	疾患別 ADL 脊髄損傷	講義	
第 5 回	疾患別 ADL リウマチ	講義	
第 6 回	疾患別 ADL パーキンソン病	講義	
第 7 回	疾患別 ADL 認知症	講義	
第 8 回	PT の ADL リハビリ (言語聴覚士)	講義	
第 9 回	ST の ADL リハビリ (言語聴覚士)	講義	
第 10 回	シーティング (木之瀬隆先生)	講義	
第 11 回	シーティング (木之瀬隆先生)	講義	
第 12 回	自助具作製	演習	
第 13 回	自助具作製	演習	
第 14 回	自助具作製	演習	
第 15 回	試験	講義	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	・ADL とその周辺 第3版. 医学書院 ・姿勢と動作—ADL その基礎から応用—、メジカルフレンド社	
参考図書	適宜紹介する	
留意事項	授業には能動的に参加すること。予習と復習をしておくこと。	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学VI (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	後期	必修

◇講義概要

義肢、装具、リハビリテーション関連機能（自助具を含む）について学ぶ。基礎知識（定義、歴史、種類、構造、機能、作業療法士の役割、対象疾患及び障害）と基礎技能（製作、適合判定、訓練、追跡調査）の実習を行う。

◇到達目標

*車いすシーティングについて説明することができる *義肢・装具の名称や対象疾患(障害)などの基礎知識と適合判定などの基礎技能を身に付ける *基本的なスプリントを作成することができ、対象疾患や使用方法などについて説明することができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	義肢装具学 総論	講義	
第2回	車いすシーティングとは (ラックヘルスケア株式会社 松岡研太郎先生)	講義・演習	
第3回	車いすシーティングの実際 (ラックヘルスケア株式会社 松岡研太郎先生)	講義・演習	
第4回	上肢切断に対する義手 (日本生命病院 松下卓也先生)	講義・演習	
第5回	上肢切断に対する義手 (実例をもとに考える) (日本生命病院 松下卓也先生)	講義・演習	
第6回	筋電義手とは？ (オットーボック株式会社 八幡済彦先生)	講義	
第7回	筋電義手の実例 (オットーボック株式会社 八幡済彦先生)	講義・演習	
第8回	筋電義手の体験 (オットーボック株式会社 八幡済彦先生)	講義・演習	
第9回	スプリントについて (上原尚之先生)	講義・演習	
第10回	スプリント製作実習 (スプリントの構造・デザイン) (上原尚之先生)	演習	
第11回	スプリント製作実習 (装具のチェックアウト) (上原尚之先生)	演習	
第12回	スプリント製作実習 (短対立装具) (上原尚之先生)	演習	
第13回	スプリント製作実習 (カックアップ) (上原尚之先生)	演習	
第14回	スプリント製作実習 (PIP 伸展スプリント) (上原尚之先生)	演習	
第15回	試験 (フィードバック含む)	試験	

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) ■その他 (20 %)
------	---

教科書	義肢装具学 (医学書院)
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	1	後期	選択必修

◇講義概要

レクリエーションの意義・役割を理解する。

◇到達目標

レクリエーションの概論が理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	レクリエーション概論について	講義・演習	
第2回	楽しさと心の元気づくりの理論(集団心理とレク支援)	講義	
第3回	レクリエーション支援理論について(集団の特性と支援方法)	講義	
第4回	レクリエーション支援の方法(集団レク実践)	演習	
第5回	レクリエーション支援の方法(ものづくりから遊びへの誘い)	演習	
第6回	現場でのレクリエーション支援レポート	講義	
第7回	レクリエーションの支援の方法(音楽療法の理解)	講義演習	
第8回	レクリエーションの支援の方法(音楽療法の演習)	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	適宜印刷配布
留意事項	資格取得科目につきレクリエーション現場実習を課す

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
障害者スポーツ論 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	1	後期	選択必修

◇講義概要

障がい者スポーツについて学び、障がい者スポーツのあり方を理解する。 (障がい者スポーツ初級指導員 資格取得科目 課程認定校に付きその他必要要件あり)

◇到達目標

医療従事者として障害者スポーツの関わり方を理解できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	障がい者スポーツに意義と理念・障害者スポーツに関する諸施策	講義	橋本
第2回	障がい者スポーツ大会の概要・日本障がい者スポーツの資格制度	講義・演習	橋本
第3回	コミュニケーションスキルの基礎	講義演習	中西
第4回	障がい者スポーツの理解	講義	中西
第5回	各障害のスポーツ指導上の留意点と工夫	演習	中西
第6回	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	演習	中西
第7回	障害者スポーツ推進の取り組み	講義・演習	中西
第8回	障がい者スポーツ実践者との交流 レポート作成	演習	中西

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (80 %) ☒ その他 (20 %)
------	---

教科書	なし
参考図書	適時印刷配布
留意事項	障がい者スポーツ初級指導員取得科目 (資格は最終学年に卒業見込み者)